

# 河川水域水産資源管理対策事業 モクズガニ放流技術開発試験

山根 恭道

前年度に引き続き産卵モクズガニの生態を解明するため、江川の河口部において調査を実施した。また、放流した種苗の成長・移動を把握するため追跡調査を実施したので報告する。

## 1 産卵モクズガニの生態調査

### 1) 材料と方法

**調査場所** 調査地点は図1に示す江川河口で河口部より淡水区となるであろうと思われる場所まで区間に5箇所を設定し調査を実施した。また、江川において海水の流入状況を把握するため、平成4年10月26日に河口部から海水の流入がなくなる地点まで塩素量の測定を行なった。

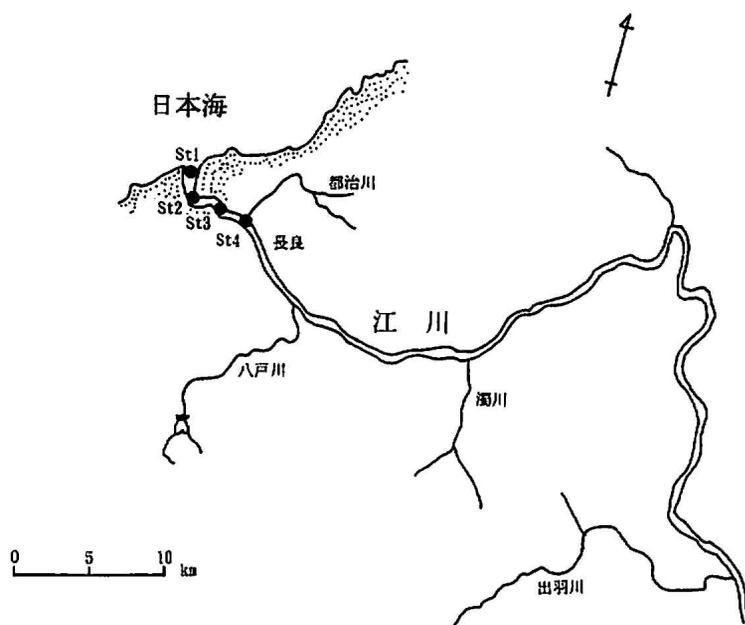


図1 調査地点

**調査方法** 平成4年9月1日から平成5年3月31日までの間、1ヶ月に1～2回エビ栓（市販品、65×45×25cm、角型、黒色合繊網、目合13mm、餌は冷凍イワシ）を用いて調査を行った。また、採捕したモクズガニは調査地点ごとに尾数、雌雄、甲長、甲高、体重、第5腹節長を測定した後、種苗生産用の親ガニとして使用した。また、調査によって採捕した雌ガニの内、数匹を解剖し貯精袋に精子が保存されているか確認した。

## 2) 結果と考察

江川河口部での塩素量と水温の調査結果は表1に示した。調査は一日実施しただけであり断定は出来ないが、河口部で21%、3km上流でほぼ淡水となった。調査時の水温は15.2℃～13.5℃であった。調査時の潮汐は中潮の満潮30分前であり、調査した感じでは河川内における干満の変化は、気象庁記載の時間よりもかなり遅れるようである。

表1 調査地点の環境

調査地点	河口からの距離(km)	水温(℃)	塩素量(%)
St. 1	0.5	15.2	21
2	2	14.4	16
3	3	13.8	6
4	4	13.5	3

モクズガニの採捕状況を図3に示した。調査期間内における採捕数は214尾であり、雌雄別の数は雄が98尾雌が116尾であった。大きさは甲長で最小39mm～最大98mm、平均は雌が59.2mmで雄が58.8mmであった。また、雌の成熟度（平均第5腹節長／平均甲長×100）は66%～89%、最小55%～最大95%であった。

採捕地点であるSt. 1～4の広範囲で外卵を抱いた親ガニ62尾が採捕された。

交尾域については採捕地点で最も上流部に当るSt. 4で、貯精袋から精子は確認されたものの、漁業者の聞き取りによるとこの地点まで海水が流入しているということであり、まったくの淡水域での調査は実施していないため、比較の判定が難しく今後調査時期と調査場所を検討する必要がある。

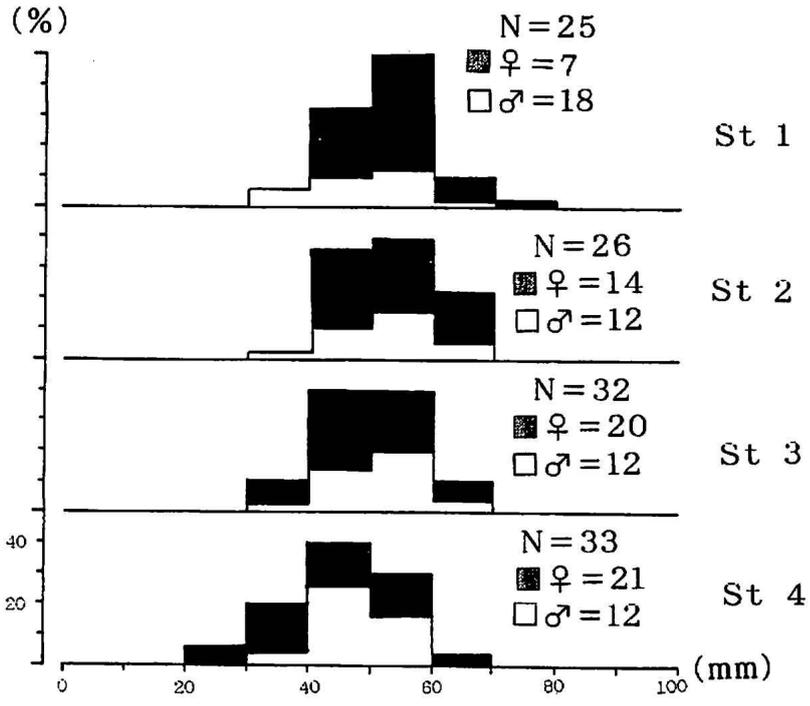


図2 モクズガニの組成